

第3回 高知県1漁協の将来像を考える委員会 議事概要

- 日 時 平成30年2月19日(月) 14時～16時00分
- 場 所 高知共済会館「藤」
- 欠席委員 澳本副会長(代理で米沢参事が出席)、志磨村委員、浦尻委員、木下委員
- 議 題 ① 先進地視察について(報告)
② 市場、事務所集約の在り方について

■ 議事概要

◇ 議題①:事務局から先進地視察の概要を報告。以下、各委員の意見等。

- ・合併のメリットをあまり聞けなかったのが、残念(弘田委員、西内委員、崎山委員)
- ・農協との連携など、魚価向上のために新たな取組みをしていることは面白い(弘田委員)
- ・メリットはなくとも、漁協合併等は結果的には避けられないものだったのだろう(泥谷市長)
- ・本店と支店とが緩やかに繋がっているというのが非常に印象的(西内委員)
- ・時間的な制約はあるかもしれないが、他の所も見てみたい(西内委員)

◇ 議題②:各委員の意見・議論の概要は以下のとおり

- ・市場集約の必要性は理屈ではわかるが、特に芸東の大敷は地域との繋がりが強いので、地元からの反発は凄いと思う。(弘田委員)
 - 椎名、三津、高岡の施設は老朽化しており、地元負担まで求めて全てやり替えるのかというのが一番のポイント。地元調整が難しいとは思いますが、集約したいというのが漁協の本音ではないか。(竹内副部長)
 - 3つの市場を新しくする体力はない。清水市場のときは2,000万円ほど増資したが、椎名、三津、高岡は増資も望めないで、時間をかけて調整し、何としても集約化を進めていきたい。(米沢参事)
- ・出張所には職員をどのくらい配置するイメージか。(安岡会長)
 - 基本的には1人。通常サービスは従来どおり行う。(竹内副部長)
- ・須崎も老朽化による建て替えの話が出ていて、3つの漁協を集約するチャンスでもあるかと思っている。(西内委員)
 - 須崎市場の建て替えにはまだ時間があるので、拠点市場としてどのような機能を果たすべきかはこれから議論していきたい。(竹内副部長)
- ・浜値の向上を市場集約のメリットと言えるのか疑問。(西内委員)
- ・定置はIターンも含めて若手の担い手を確保している。定置主体の地域と、釣り主体の地域とでは組合員の減少に対する考えを変えるべきでは。(弘田委員)
 - 伊田の大敷ではIターンで一定の雇用を確保しており、そういった考えは我々も理解している。(谷脇部長)
- ・久礼市場については、現実的な方向性で考えていただいているように思う。H29もカツオだけで

- 4億1千万円ほどの水揚げがある。(崎山委員)
- ・考え方は十分に理解できるが、非合併の窪津はなかなか難しいのでは。(泥谷委員)
 - ・削減する職員の見合いは、漁業振興に活用するような考えはあるのか。(安岡会長)
 - まずは職員の給与水準を上げる必要がある。(竹内副部長)
 - ハード面で言うと、拠点市場は相当に良い物にする必要があるので、そこは来年度の委員会で議論する必要があると思っている。(竹内副部長)
 - ・職員削減によるメリット(魚価向上の取組等)がないと皆賛成できないのでは。(弘田委員)
 - ・県内の他業種と比べて漁協の賃金はどうか。(安岡会長)
 - 平均で400万円を切っている。年齢別で見るとさらに低い。(竹内副部長)
 - ・すくも湾が合併するときは当面緩やかに統治するようなこともやらざるを得ないか。(安岡会長)
 - いわゆる独立採算制も視野に入れる必要があるかと思う。(竹内副部長)
 - ・横浜の子会社はそのまま置いておくのか。JAとの連携などは。(安岡会長)
 - 応援店の取引拡大も行っているし、今年は黒が出そうと聞いているので、継続してやってもらえれば。(竹内副部長)
 - ・JAの大型直販所でも店舗を構えて、漁師が喜ぶような形を作ってもらえれば。(安岡会長)
 - そこは、弘化台等の民間業者に任せた方が良く個人的には思っている。(竹内副部長)
 - ・県漁連の今後の在り方はどう考えるか。(安岡会長)
 - 今の体制で漁協の指導ができるのかという話もあるし、これから県漁連をどうしていくのかを、国の指導も仰ぎながら進めていくことになろうかと思う。ただし、包括承継は多分無理なので、存続するのか、解散するのかというなかで選択肢を絞っていくことになるかと思う。(竹内副部長)
 - ・落としどころをどうするのかも含めて、しっかり対応していただきたい。(西内委員)
 - ・県漁連は、5年を目処としたビジョンの策定に取り組もうとしている。(崎山委員)
 - ・結論として、市場、事務所の集約化の在り方の方向性は資料3の23ページに記載のとおりとなる。